

英語科（コミュニケーション英語Ⅰ）学習指導案				
福島県立いわき光洋高等学校 普通科 1年C組 令和3年12月6日（月）第5時限 場所：1-C教室(303教室)				
単元名	WORLD TREK English Communication I（桐原書店） Lesson 7 Hokulea's Adventure			
学習指導要領上の位置づけ	(1) ア、イ、ウ			
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホクレア号の航海の意義と未知のものへ挑戦する精神について理解する。 ・キーワードを元に、本文の内容をリプロダクトできるようになる。 ・現在完了進行形、形式主語、過去完了について学び、実際に使えるようになる。 			
取り上げる言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・英問英答 ・さまざまな音読活動 ・ストーリーリプロダクション 			
単元設定の理由	<p>(1) 教材観</p> <p>自然の動力と航法だけで旅をしようという「ホクレア号」について扱った単元である。ハワイは太平洋の真ん中にあり、どこの大陸からも最も遠く離れた島である。西暦800年ごろに人がすでに住み始めていたが、伝承では4,000キロ離れたタヒチからカヌーで来たとされており、古代ポリネシア航海術を使ってタヒチからハワイまで航海を成功させた。自然と一体化するポリネシア文化に強く惹き付けられた日本人女性がポリネシア航海術を学び、日本人初のホクレア号乗組員となった。たとえ恐れがあってもそれを克服し、未知のものへ挑戦する精神を読み取ってほしい。</p> <p>(2) 生徒観</p> <p>「基本的な構文を含む文章を段落毎に理解し、全体の概要をとらえることができる(CAN-DOリストの形での学習到達目標 1学年 Reading)」、「英語による講義などが、易しい言葉で繰り返しゆっくりと説明されれば理解することができる(同 Listening)」、「教科書の内容について、本文やキーワードを使って比較的短い要約を書くことができる(同 Writing)」、「キーワードやイラスト、写真の助けを借りて、教科書の概要を何とか発表することができる(同 Speaking)」ことを目指し、英問英答や音読活動、リプロダクション等に取り組ませている。中学校での基本的な学習事項は大体理解しており、授業にも一生懸命取り組む姿勢が見られる。</p> <p>(3) 指導観</p> <p>本教材には生徒たちにとってあまり身近でない内容も含まれているため、やや難しいと感じる生徒が多いことが予想される。そのため、必要に応じて写真や英文等を提示しながら内容理解を促していく。また、本文を繰り返し聞かせたり、読ませたりしながら、概要や重要表現を理解させていく。内容を要約したり、題材に関して自分が思ったことを話したり書いたりする時間も設け、学んだ表現を実際に使わせながら定着を図りたいと考えている。</p>			
単元の評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークや音読活動に積極的に参加できる。 ・自分の考えを相手に伝えたり、相手の話す内容を聞き取ろうとしたりする姿勢がある。※CAN-DOリストの形での学習到達目標 1学年 Reading & Speaking & Listening 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文で読んだ内容を、キーワードを使って表現することができる。 ・ホクレア号の乗組員である内野さんの経緯を英語で表現できる。 ※CAN-DOリストの形での学習到達目標 1学年 Speaking & Writing 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホクレア号と内野さんの経緯について、聞いたり読んだりしたことを理解し、内容に関する質問に英語で答えることができる。 ※CAN-DOリストの形での学習到達目標 1学年 Listening & Reading 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホクレア号の誕生とその功績、また現代に受け継がれる未知への挑戦の意義についての正しい知識を持ち、理解する。 ・現在完了進行形、形式主語、過去完了の使い方を理解する。

◇指導と評価の計画（全8時間）

時	主な学習活動	評 価 規 準			
		コミュニケーション への関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
1	・Part 1 の新出語句確認、 概要把握			・ハワイへどこからど のように渡ってきたの か、それに対するポリ ネシア航海協会の見解 を理解できる。	・Part 1 に出てくる重 要な表現を理解でき る。
2	・Part 1 の内容を、キー ワードを元に内容理解に 努める。	・ペア同士で協力しな がら練習したり、質問 したりしている。	・Part 1 の内容をキー ワードやイラスト等を 使い要約できる。		
3	・Part 2 の新出語句確認、 概要把握			・ホクレア号の誕生と その功績、それに感銘 を受けた内野さんが乗 組員となる経緯を理解 できる。	・Part 2 に出てくる重 要な表現を理解でき る。
4	・Part 2 の内容を、キー ワードを元に内容理解に 努める。	・ペア同士で協力しな がら練習したり、質問 したりしている。	・Part 2 の内容をキー ワードやイラスト等を 使い要約できる。		
5	・Part 3 の新出語句確認、 概要把握			・ハワイから日本への ホクレア号の航海に参 加した内野さんの心境 や未知への挑戦の意義 を理解できる。	・Part 3 に出てくる重 要な表現を理解でき る。
6 本 時	・Part 3 の内容を、キー ワードを元に内容理解に 努める。	・ペア同士で協力しな がら練習したり、質問 したりしている。	・Part 3 の内容をキー ワードやイラスト等を 使い要約できる。		
7	・本文全体の内容と文法 事項を確認する。			・本文の概要をつかむ ことができる。	・現在完了進行形、形 式主語、過去完了の使 い方を理解できる。
8	・本文全体の内容と文法 事項を確認する。			・本文の概要をつかむ ことができる。	・現在完了進行形、形 式主語、過去完了の使 い方を理解できる。

◇本時のねらい (第6時)

- ・ Part 3 の概要をとらえ、正しく音読することができる。(※CAN-DO リスト 第1学年 Reading)
- ・ Part 3 の内容を理解し、キーワードを元に教科書の概要を発表することができる。

(※CAN-DO リスト 第1学年 Listening & Speaking)

◇生徒に示す本時のねらい

- ・ You can understand the Part 3. (※CAN-DO リスト 第1学年 Reading & Listening)
- ・ You can reproduce the story of Part 3. (※CAN-DO リスト 第1学年 Speaking)

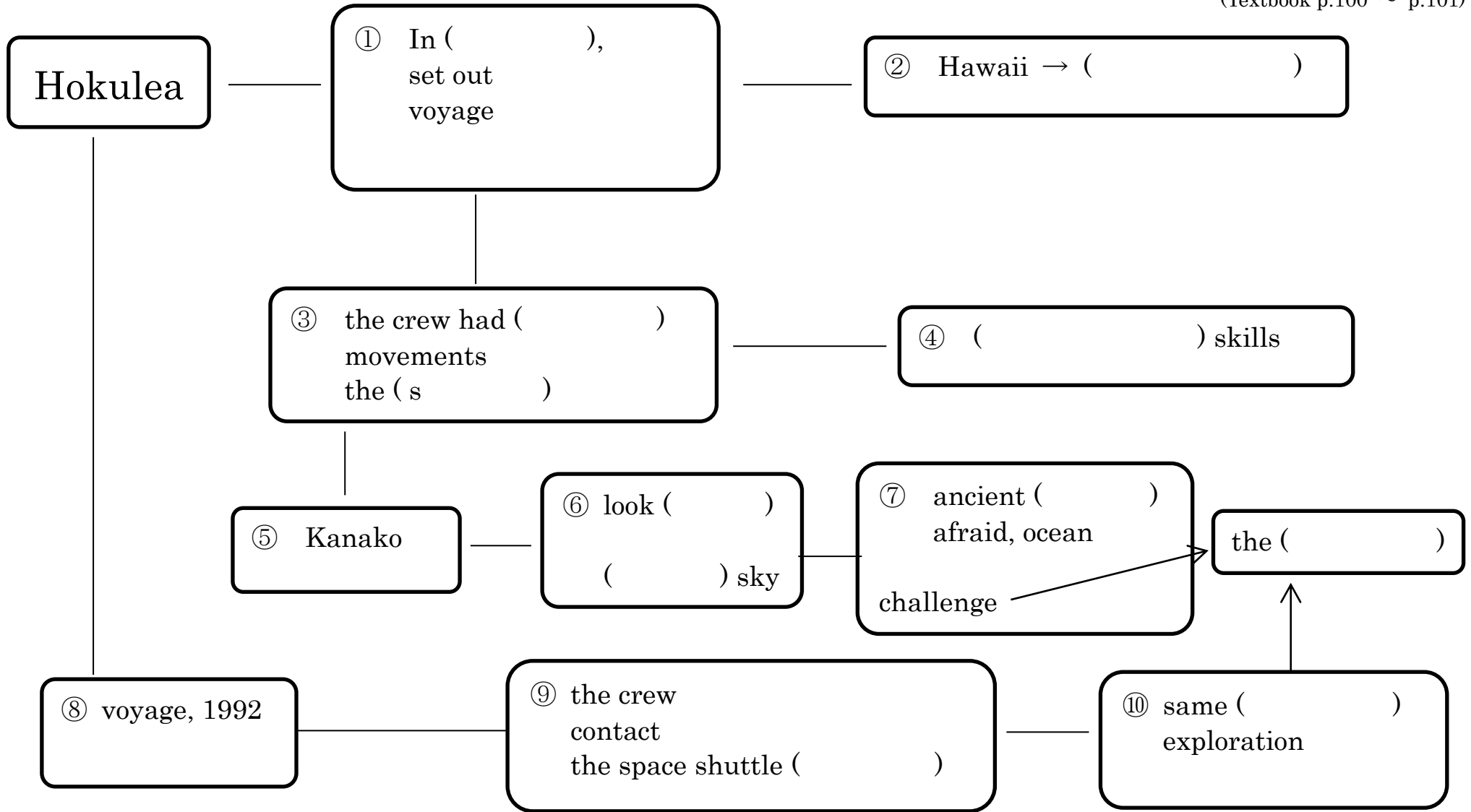
◇指導過程

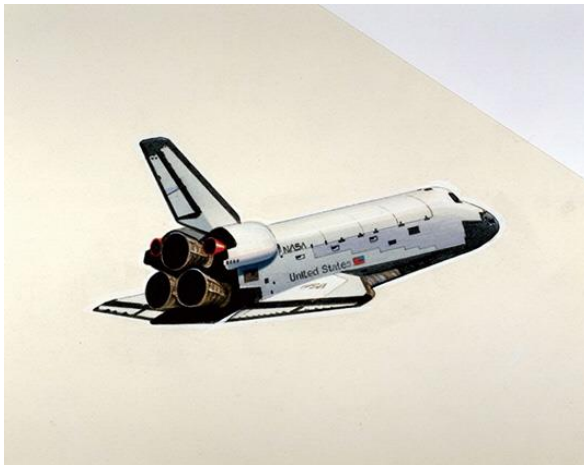
段階	学習内容・活動	時間 (分)	◇指導上の留意点 ◆評価規準
導入	1. 本時のねらいの把握	2	◇本時のねらいを説明し、本時の活動につながるようにする。
展開	2. Preparatory Interaction Part 3 のリスニングと音読をして、前時の内容を復習する。言語活動	10	◆音読を通して、Part 3 の内容を復習することができる。【外国語理解の能力】 ◇本文の意味内容を考えながら聞き、音読するように指導する。
	3. Review Questions ・内容に関する簡単な質問を投げかけ、前時の復習をする。言語活動	5	◆本文の内容を理解して、英問英答ができる。(※CAN-DO リスト 第1学年 Listening & Speaking) 【外国語理解の能力】
	4. Part 3 キーワードマップを完成させ、それを用いながら、本文の内容をペアに説明する(終わったら交代)。その後、相手を 1~2 人程度自由に変えて説明させる。言語活動	20	◇相手を変えて何回か行い、生徒が上手に発表できるようにする。 ◆本文の内容を口頭で説明することができる。【外国語表現の能力】 (※CAN-DO リストの形での学習到達目標 第1学年 Speaking)
	5. 音声 CD を聞き、Part3 の英文要約の穴埋めと自分の意見や感想を 1~2 行程度書かせる。	10	◆必要な情報を聞き取り、Part3 の概要を捉えて要約文を完成させ、英語で自分の意見や感想を書くことができる。【外国語理解の能力】(※CAN-DO リストの形での学習到達目標 第1学年 Listening & Writing) ◇2 回聞かせ、手本となる要約の確認をさせ、内容を定着させる。
まとめ	6. 本時の振り返りと評価	3	◇本時の授業を振り返り、自己評価する。

資料	音読プリント、ワークシート2枚 (Keyword Map & Summary)
----	---

Lesson 7 Part 3 Keyword Map for Retelling

(Textbook p.100 ~ p.101)





No	Partner's Name	Fluency (流暢さ)			Accuracy (正確さ)			Attitude (発表態度)		
1		1	2	3	1	2	3	1	2	3
2		1	2	3	1	2	3	1	2	3
3		1	2	3	1	2	3	1	2	3

Fluency (流暢さ) … 正しい発音やイントネーションで話せている (1 = not so good (もう少し) 2 = so-so (まあまあ) 3 = good (よい))
 Accuracy (正確さ) … 文法や語彙などを正しく使用している (1 = not so good (もう少し) 2 = so-so (まあまあ) 3 = good (よい))
 Attitude (発表態度) … アイコンタクトやジェスチャーなど (1 = not so good (もう少し) 2 = so-so (まあまあ) 3 = good (よい))

Class _____ No. _____ Name _____

Lesson 7 Hokulea's Adventure

Part 3 Summary

Fill in the blanks with words.

In (①) _____), Hokulea sailed from Hawaii to (②) _____. The crew used (③) _____) skills to sail from island to island across the sea. Kanako wondered how the ancient (④) _____) felt. They were undoubtedly (⑤) _____) but wanted to challenge the (⑥) _____. During the Hokulea's (⑦) _____) voyage, the crew contacted the space (⑧) _____) Columbia. The (⑨) _____) said they shared the same spirit of (⑩) _____) as the Hokulea's voyagers'.

☆ Write your short comments or opinions about Part 3. (1~2 sentences)

★ Today's Activity Review ★

Please Evaluate today's activity for yourself. Choose from 1 to 4 below.

No	Goals (目標)	Evaluation (評価)			
1	I was able to understand Part 3.	1	2	3	4
2	I was able to retell the story of Part 3 to my partners.	1	2	3	4
3	I was able to fill in the blanks of summary of Part 3.	1	2	3	4
4	I was able to write my own comments or opinions	1	2	3	4

(1=not so good 2=so-so 3=good 4=very good)

Class	Number	Name
-------	--------	------

Part 3 Summary (Model Answer)

In (① 2007), Hokulea sailed from Hawaii to (② Japan). The crew used (③ wayfinding) skills to sail from island to island across the sea. Kanako wondered how the ancient (④ voyagers) felt. They were undoubtedly (⑤ afraid) but wanted to challenge the (⑥ unknown). During the Hokulea's (⑦ 1992) voyage, the crew contacted the space (⑧ shuttle) Columbia. The (⑨ astronauts) said they shared the same spirit of (⑩ exploration) as the Hokulea's voyagers'.

(日本語訳)

2007年に、ホクレアはハワイから日本へ航海しました。乗組員は、ウェイファインディング航海術を使って海を渡り島から島へと航海しました。加奈子さんは古代の航海者たちはどのように感じていたのだろうと思いを巡らせました。明らかに彼らは怖かったはずですが、未知なるものに挑戦したかったのでしょう。ホクレアの1992年の航海の間に、乗組員はスペースシャトルのコロンビア号と交信しました。宇宙飛行士は、ホクレアの航海者たちと同じ探求の精神を共有していると語りました。